

令和 4 年 6 月 17 日現在

機関番号：15401

研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）

研究期間：2018～2021

課題番号：17KK0050

研究課題名（和文）コンピテンシー志向の授業づくりに関する日独比較国際研究

研究課題名（英文）Comparative International Study on Competency-based Lesson Study and Teacher Education Between Japan and Germany

研究代表者

吉田 成章（Yoshida, Nariakira）

広島大学・人間社会科学研究科（教）・准教授

研究者番号：70514313

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 11,700,000円

渡航期間： 10ヶ月

研究成果の概要（和文）：本研究では、研究代表者がライプツィヒ大学にて10ヶ月間の在外研究に従事し、同大学・Maria Hallitzky教授との日独共同研究に取り組んだ。Hallitzky教授の所属するライプツィヒ大学教育学部一般教授学研究室との共同研究体制のもと、継続的な学校調査と授業研究に取り組み、広島大学教育学部教育学研究室との研究室間の共同研究体制を構築した。10ヶ月間の在外研究にて収集した資料・データおよび構築したネットワークを渡航後にも継続・発展させ、邦・英・独語での研究成果の公開および研究室間の継続的な共同研究体制の発展へと結実させた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

教育学分野における日独間の研究交流は、ドイツ語の著作の日本語邦訳出版およびドイツ教育学研究の日本への紹介が主流であった。それに対して本研究では、日本の教育学研究および教育実践の伝統として位置づけられる「授業研究」をドイツの教育学研究・教育実践の文脈へと発信する研究に従事した。ドイツの研究者との「授業研究」に関する国際共同研究は世界的な教育学研究の潮流を牽引する研究成果であり、今後の国際的な教育学研究および日本の教育学研究・教育実践に改めて日本の教育学研究・教育実践の水準の高さとその課題を突きつける意義を有している。

研究成果の概要（英文）：In this study, I (Yoshida) engaged in 10 months of overseas research at Leipzig University and conducted Collaborative International Study with Professor Maria Hallitzky of Leipzig University. The materials and data collected during the 10 months in Germany and the network established continued to be developed after the research in Leipzig, resulting in the publication of research results in Japanese, English, and German and the development of an ongoing inter-laboratory collaborative research system.

研究分野：教育方法学

キーワード：授業研究 授業づくり コンピテンシー ドイツ 日独共同研究 国際共同研究 Lesson Study

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

本国際共同研究の基盤となっているのは、科学研究費補助金・基盤研究(C)「中等教育学校におけるコンピテンシー志向の授業づくりに関する理論的・実証的」(研究代表者:吉田成章)(2016-2018年度)であった。同研究では、ドイツの教育課程の規準(学習指導要領)がPISA調査をはじめとした国際学力調査の影響を受けて、「スタンダード化」されている状況を明らかにし、我が国の学習指導要領において導入された「資質・能力」を含めた国際的なコンピテンシー志向の教育改革・カリキュラム改革の動向を視野に、コンピテンシー志向のカリキュラム改革・授業改革の現状と課題を明らかにすることに取り組むこととした。

2. 研究の目的

本研究の目的は、子どもたちに育成すべき「コンピテンシー」を志向するカリキュラム改革のもとで、日々の授業実践において子どもたちがどのように「コンピテンシー」を獲得しているのかを、「授業研究」の枠組みを用いて継続的な実証研究にもとづいて明らかにすることである。

3. 研究の方法

ドイツ・ライプツィヒ大学教育科学部一般教授学研究室 Maria Hallitzky 教授との共同研究体制のもと、継続的な教育課程調査・学校調査・授業調査を行い、「授業研究」の枠組みを用いた日独国際共同研究を実施することを研究の方法とした。

4. 研究成果

研究代表者は2019年2月20日~2019年11月28日までライプツィヒ大学での在外研究に従事し、ライプツィヒ大学 Hallitzky 教授との共同研究に従事した。

本研究の成果は次の3点にまとめられる。

第一に、授業研究に関する研究成果を邦・英・独語にて公開することができたことである。とりわけ日本語による研究成果は、「ドイツとの授業の比較検討による日本の授業研究の海外展開の可能性と課題」(日本教育学会編『教育学研究』第86巻第4号、2019年、107-120頁)にまとめた。本論考では、世界的に Lesson Study への注目が集まる中で、独自の「授業研究」を展開しているドイツの教育学研究の現状を整理し、社会科学の研究方法論をベースとした授業研究・授業分析の特質を明らかにし、日本の授業とドイツの授業とを、日本とドイツそれぞれの教育学研究・授業研究の文脈において分析・比較検討した成果を記述した。その成果として、日本の授業研究が授業実践をベースに教育学理論の構築・発展に貢献してきたことの意義と、授業研究方法論を明確にした教育学研究としての授業研究の精緻化および国際共同研究プラットフォームとしての授業研究アーカイブの構築の課題を指摘した。

英語による研究成果は、Nariakira Yoshida, Mitsuru Matsuda, Yuichi Miyamoto (2021): Intercultural collaborative lesson study between Japan and Germany, *International Journal for Lesson and Learning Studies*, 10 (3), 245-259 論文の刊行および Jongsung Kim, Nariakira Yoshida, Shotaro Iwata, & Hiromi Kawaguchi (Ed.): *Lesson Study-based Teacher Education: The Potential of the Japanese Approach in Global Settings*, London: Routledge, 2021 の刊行に集約されている。

前者の論文は、世界授業研究学会(WALS: World Association of Lesson Studies)が刊行する国際ジャーナルであり、同学会で Hallitzky 教授らと継続して公開してきた研究成果をまとめたものである。本論文では、日本とドイツとの間で国際的かつ異文化間の共同研究を授業研究として実施する枠組みおよびその経過と成果を整理した。とりわけ、本研究の主たる対象である授業は、それぞれの国における公用語が使用されるため、共同研究の際には「翻訳」の問題がつきまとう。本研究では、日本語とドイツ語の間の「翻訳」を丁寧に行いながら、英語を第三の仲介言語として用いることで、授業トランスクリプトをより精緻に解釈する方法を開発・実施した。その上で、他の国・文化間の国際授業研究のための示唆として、データ収集・分析・解釈との間で生じる「翻訳」問題および解釈文脈の違いを前提とした解釈共同体の構築の意義を指摘した。

後者の著書は、授業研究を基盤とした教師教育をテーマとして、日本の授業研究を国際的な文脈へと発信することを目的として刊行した。日本の授業研究は学校における校内研修としてのみ実施されるものではなく、世界的に展開される Lesson Study よりも射程の広い営みであることを指摘した上で、各学校段階および学校外の領域においても行われる授業研究という営みを「教師教育」という視点から整理した。その上で、米国・ノルウェー・ドイツ・ペルー・ウガンダといった諸外国における Lesson Study ベースの教師教育の論考を収め、地域との協働のもとで多様なステークホルダーが参画する授業研究のあり方および授業研究が民主主義構築にいかに関与しうるのかを取り上げた論考をおさめた。Hallitzky 教授らにもドイツの授業研究の成果を同書に寄稿してもらった。同論考では、教育学研究としての授業研究と開発に近い授業研究との間の4つのスペクトラムが提示され、国際的に展開される Lesson Study に対して、ドイツと日本の授業研究が位置づく文脈が整理されるとともに、ドイツに固有な Unterrichtsforchung の動向が提起された。

ドイツ語による研究成果は、Maria Hallitzky, Christine Kieres, Emi Kinoshita, Nariakira Yoshida (Hrsg.): Unterrichtsforchung und Unterrichtspraxis im Gespraech: Interkulturelle und interprofessionelle Perspektiven auf eine Unterrichtsstunde, 2022, Bad Heilbrunn: Klinkhardt にまとめられる。同書は、Hallitzky 教授との共同研究体制のもとで、ライプツィヒ大学一般教授学研究室と広島大学教育方法学研究室との研究室間の共同研究の成果、およびライプツィヒの学校教員との共同研究体制のもとで遂行された 3 年間の国際共同研究の成果を集約したものである。同書の刊行に至るまでに 5 度の国際学会にて発表を行い、オンラインも介した研究交流を幾度も重ねることができた。同書では、ライプツィヒのギムナジウム（中等教育学校）にて実施されたドイツ語の授業を対象として、ライプツィヒ大学の分析と広島大学の分析を実施し、その分析結果を授業者にフィードバックすることで授業者による授業省察を引き出し、さらにこれらの取組を通じて教育学研究・教育学理論と教育実践との間を架橋する方途の一端を提起した。すなわち、授業を参観して即時にコメント等をフィードバックするのみにとどまらず、授業の記録を作成し（ビデオ、トランスクリプト）、その分析を行い、その解釈を共同で練り上げ、そのフィードバック（授業者および研究成果発表）を行うことで、ロングスパンでの教育学研究・教育学理論および教育実践（授業づくり、教師教育）へとフィードバックさせるという方途である。本研究成果は、授業研究を基盤とした教師教育の国際共同研究の一つのモデルとなりうるものである。

第二に、研究代表者と Hallitzky 教授との個人間の共同研究を、ライプツィヒ大学一般教授学研究室と広島大学教育方法学研究室との研究室間の国際共同研究へと発展させたことである。その成果は上述した研究成果公開においても記してきたが、2021 年度からの 2 年間の日本学術振興会・二国間交流事業「『民主的な授業づくり』のための国際協働授業研究ネットワークの構築に関する研究」（課題番号：JSPSBP120213506）の支援のもとでの継続的な研究室間の共同研究へと発展させることができた。2020 年から 2021 年にかけて、日独間の渡航が制約される中でも、研究室間のオンラインによる研究交流を継続・発展させることで、上述した研究成果の公開へと結実させることができた。また、本共同研究体制のもとで、「授業研究」分野の若手研究者（助教相当、博士課程後期院生、博士課程前期院生）の育成にも貢献してきた。若手研究者の育成と国際共同研究の継続的発展へと結実させる研究体制を構築できたことは、本研究の重要な成果の一つである。

第三に、個人間の共同研究から研究室間の共同研究への発展のみにとどまらず、教育関連多分野の国際共同研究へと発展させることができたことである。上述の“Lesson Study-based Teacher Education” (Routledge, 2021) の研究成果に結実されているとおり、教育学・教科教育学を含めた多国間の国際共同研究へと本研究の成果を発展させることができた。本国際共同研究の成果は、その後の 2019-2022 年度科学研究費補助金（基盤研究(B)）「『授業研究』を軸としたコンピテンシー志向の教師教育に関する日独比較国際共同研究」（研究代表者：吉田成章）（課題番号：19H01629）および 2022-2026 年度科学研究費補助金（基盤研究(A)）「授業研究を軸とした教職の高度化に関する国際共同研究プラットフォームの構築」（研究代表者：吉田成章）（課題番号：22H00080）の取得とその支援による国際共同研究の実施へとつながり、その取組の射程を漸次的に拡大・発展させることができています。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計19件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 10件 / うちオープンアクセス 11件）

1. 著者名 吉田成章	4. 巻 第1巻
2. 論文標題 教育方法学の学問的固有性をいかに教えるか	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 広島大学大学院人間社会科学研究科紀要 教育学研究	6. 最初と最後の頁 184-193頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15027/50189	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 吉田成章・松田充・宗近秀夫・二宮諒・阿蘇真早子・藤野健太郎・三戸部由幸	4. 巻 第66巻
2. 論文標題 教科書はどのような「主体的・対話的で深い学び」を求めているか 2018年度検定済み小学校教科書の分析を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中国四国教育学会編『教育学研究紀要』（CD-ROM版）	6. 最初と最後の頁 114-125頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田成章・松田充・安藤和久・阿蘇真早子・大西泰誠・金原遼・武島千明・藤原翔・三戸部由幸・澤田百花	4. 巻
2. 論文標題 探究に向かう生徒を育てる教科と総合の課題発見・解決学習推進プロジェクトの意義と課題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 広島県立吉田高等学校編『平成30～令和2年度広島県立吉田高等学校「高等学校課題発見・解決学習推進プロジェクト」報告書』	6. 最初と最後の頁 77-104頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田成章・佐藤雄一郎・安藤和久・阿蘇真早子・金原遼・澤田百花	4. 巻 第18号
2. 論文標題 高等学校における教科と総合をつなげる評価のあり方	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 広島県立日影館高等学校編『研究紀要』	6. 最初と最後の頁 47-50頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田成章・草原和博・木下博義・松宮奈賀子・川合紀宗・三好美織・小山正孝・影山和也・棚橋健治・川口広美・金鍾成・山元隆春・間瀬茂夫・永田良太・岩田昌太郎・井戸川豊・丸山恭司・三時眞貴子・森田愛子・桑山尚司	4. 巻 第19巻
2. 論文標題 「ポスト・コロナの学校教育」の提起する学術知共創の可能性と課題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 広島大学教育学部共同研究プロジェクト報告書	6. 最初と最後の頁 1-8頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15027/50582	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 金鍾成・吉田成章・岩田昌太郎・川口広美	4. 巻 第19巻
2. 論文標題 授業研究を軸にした教師教育に関する国際共同研究のプラットフォームづくり	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 広島大学教育学部共同研究プロジェクト報告書	6. 最初と最後の頁 33-40頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15027/50586	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 吉田成章	4. 巻 68
2. 論文標題 ドイツ・ライブツィヒにおける教員養成改革	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『広島大学大学院教育学研究科紀要 第三部(教育人間科学関連領域)』	6. 最初と最後の頁 27,36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15027/48508	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉田成章	4. 巻 86(4)
2. 論文標題 ドイツとの授業の比較検討による日本の授業研究の海外展開の可能性と課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本教育学会編『教育学研究』	6. 最初と最後の頁 565,578
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nariakira Yoshida, Nami Matsuo, Mitsuru Matsuda, Yuichiro Sato	4. 巻 67
2. 論文標題 Analysis and Interpretation of lessons with the Collaboration between University and School: Historical approach to the Lesson Study in Japan and a Case Study for the integrated perspectives	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Bullentin of the Graduate School of Education, Hiroshima University Part (Education and Human Science)	6. 最初と最後の頁 27,36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15027/46804	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉田成章	4. 巻 64
2. 論文標題 ドイツにおけるコンピテンシー志向の授業づくりの動向と課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中国四国教育学会編『教育学研究紀要』(CD-ROM版)	6. 最初と最後の頁 495,500
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nariakira Yoshida, Mitsuru Matsuda, Yuichi Miyamoto	4. 巻 10(3)
2. 論文標題 Intercultural collaborative lesson study between Japan and Germany	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Journal for Lesson and Learning Studies	6. 最初と最後の頁 245-259
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1108/IJLLS-07-2020-0045	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宮本勇一・松田充・安藤和久・藤原由佳・阿蘇真早子・金原遼・三戸部由幸・澤田百花・藤井翔太・明月・吉田成章	4. 巻 3
2. 論文標題 授業研究の日独共同比較研究 広島大学教育方法学研究室・ライプツィヒ大学一般教授学講座間の共同研究報告書	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 広島大学大学院人間社会科学研究科教育方法学研究室編『教育方法学研究室紀要』	6. 最初と最後の頁 33-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Nariakira Yoshida, Mitsuru Matsuda, Yuichi Miyamoto, Kazuhisa Ando, Yuka Fujiwara & Yue Ming	4. 巻 2
2. 論文標題 Characteristics and Challenges of Lesson Study and Lesson Analysis of Learning Group Formation (Gakushu Shudan)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Bulletin of the Graduate School of Humanity and Social Sciences. Hiroshima University. Studies in Education	6. 最初と最後の頁 175-184
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15027/51626	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 吉田成章・松田充・宮本勇一・安藤和久・藤原由佳・阿蘇真早子・金原遼・三戸部由幸・澤田百花・藤井翔太・明月・唐曉冬	4. 巻 67
2. 論文標題 教科書は「主体的・対話的で深い学び」をいかに求めているか 2019年度検定済み中学校教科書の分析を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中国四国教育学会編『教育学研究紀要』(CD-ROM版)	6. 最初と最後の頁 483-494
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 吉田成章・滝沢潤・安藤和久・川本吉太郎・橋本拓夢・藤原由佳・金原遼・武島千明・澤田百花・依龍太郎・田芯語・藤井冨佳・馬承昭・明月	4. 巻 19
2. 論文標題 高等学校を軸とした地域における保小中高大連携の可能性と課題 吉舎学区「資質・能力」の実践と吉舎学区学校運営協議会構想の検討	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 広島県立日彰館高等学校編『研究紀要』	6. 最初と最後の頁 53-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 吉田成章・草原和博・木下博義・松宮奈賀子・川合紀宗・三好美織・小山正孝・影山和也・棚橋健治・川口広美・金鍾成・山元隆春・間瀬茂夫・永田良太・岩田昌太郎・井戸川豊・丸山恭司・三時真貴子・森田愛子・桑山尚司	4. 巻 20
2. 論文標題 「コロナ」から学校教育をリデザインする学術知共創の可能性と課題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 広島大学教育学部共同研究プロジェクト報告書	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15027/52067	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 金鍾成・吉田成章・岩田昌太郎・川口広美	4. 巻 20
2. 論文標題 授業研究を軸にした教師教育に関する国際共同研究のプラットフォームづくり(2)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 広島大学教育学部共同研究プロジェクト報告書	6. 最初と最後の頁 53-60
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.15027/52073	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 吉田成章・滝沢潤・安藤和久・藤原由佳・澤田百花・依龍太郎・曾玉儒・藤井翔太・明月	4. 巻
2. 論文標題 教科における「探究」と総合における「探究」はいかに生きることの「探究」につながるか	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 広島県立吉田高等学校編『令和3年度広島県立吉田高等学校研究紀要』	6. 最初と最後の頁 86-118
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 宮本勇一・松田充・安藤和久・川本吉太郎・橋本拓夢・藤原由佳・澤田百花・依龍太郎・明月・滝沢潤・吉田成章	4. 巻
2. 論文標題 オンラインを活用した特別活動の授業づくり 「大学を知ろう」企画の代替ではないオンラインと対面を組み合わせさせた体験学習の充実	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 広島県立吉田高等学校編『令和3年度広島県立吉田高等学校研究紀要』	6. 最初と最後の頁 120-130
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計12件(うち招待講演 1件/うち国際学会 7件)

1. 発表者名 吉田成章
2. 発表標題 教育方法学の学問的固有性をいかに教えるか
3. 学会等名 日本教育方法学会第56回大会課題研究、宮崎大学(オンライン)(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 吉田成章・松田充・宗近秀夫・二宮諒・阿蘇真早子・藤野健太郎・三戸部由幸
2. 発表標題 教科書はどのような「主体的・対話的で深い学び」を求めているか 2018年度検定済み小学校教科書の分析を中心に
3. 学会等名 中国四国教育学会第72回大会自由研究発表「カリキュラム」部会、広島大学（オンライン）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Nariakira Yoshida, Mitsuru Matsuda, Yuichi Miyamoto, Kazuhisa Ando und Masako Aso
2. 発表標題 Jugyo Kenkyu in Hiroshima: Interprofessionelle Unterrichtsentwicklung, Panel 5: Gemeinsame Grenzen. Perspektiven auf Unterricht aus Hiroshima und Leipzig
3. 学会等名 Jahrestagung der Sektion Interkulturelle und International Vergleichende Erziehungswissenschaft (SIIVE) in der Deutschen Gesellschaft fuer Erziehungswissenschaft (DGfE), TU Dortmund (Online) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Nariakira Yoshida, Yasushi Maruyama, Mitsuru Matsuda, Kazuhiro Kusahara, Shigeo Mase, Kazuya Kageyama, Shotaro Iwata, Yuichiro Sato, Miyuki Okamura, Maho Yodozawa, Yuichi Miyamoto, Aiko Hamamoto, Asuka Matsuura, Yu Yamamoto, Seigi Naganuma, Mayumi Kawamura
2. 発表標題 Lesson Study-based Training of Teacher Educator: Case Study on Self-Study and Cooperative Lesson Study
3. 学会等名 WALS(The World Association of Lesson Studies) Conference 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Maria Hallitzky, Christine Kieres, Nariakira Yoshida, Mitsuru Matsuda, Yuichi Miyamoto, Asuka Matsuura, Kazuhisa Ando, Serina Sakurai, Yuka Fujiwara, Emi Kinoshita, Christian Herfter, Gereon Eulitz, Johanna Leicht, Karla Spendrin
2. 発表標題 Bridging Gaps between Teachers and Researchers in Interprofessional and Intercultural Lesson Study
3. 学会等名 WALS(The World Association of Lesson Studies) Conference 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名	Maria Hallitzky, Nariakira Yoshida, Tilman Grammes, Christian Herfter, Johanna Leicht, Tomohiro Hayakawa, Yuichi Miyamoto, Mitsuru Matsuda, Asuka Matsuura, Marika Yamane, Kazuhisa Ando, Gereon Eulitz, Karla Spendrin, Emi Kinoshita
2. 発表標題	Uebersetzungsverhaeltnisse: Praktiken der Individualisierung und Vergemeinschaftung in transkulturellen Perspektivierung
3. 学会等名	Jahrestagung der Kommission Schulforschung und Didaktik der DGfE
4. 発表年	2018年

1. 発表者名	吉田成章
2. 発表標題	ドイツにおけるコンピテンシー志向の授業づくりの動向と課題
3. 学会等名	中国四国教育学会第70回大会
4. 発表年	2018年

1. 発表者名	Nariakira Yoshida, Yasushi Maruyama, Takuya Hisatune, Ting Ban, Shohei Fukami, Tomohiro Hayakawa, Yuichi Miyamoto, Yinan Li, Takahiro Umeda, Maho Yodozawa, Xinhui Zhou, Asuka Matsuura, Sho Ueda, Yu Yamamoto
2. 発表標題	"Lesson Study" as Preparing Future Faculty Development for Teacher Educator:A Case Study on the Certificate Program for Preparing Future Faculty in Teacher Education in Hiroshima University
3. 学会等名	WALS(The World Association of Lesson Studies) Conference 2018 (国際学会)
4. 発表年	2018年

1. 発表者名	Maria Hallitzky, Nariakira Yoshida, Tomohiro Hayakawa, Yuichi Miyamoto, Asuka Matsuura, Marika Yamane, Kazuhisa Ando, Emi Kinoshita, Christian Herfter, Stephan Weser, Gereon Eulitz, Johanna Leicht, Karla Spendrin
2. 発表標題	Teacher Questions in the Context of Individualization and Collectivization in Lessons: Intercultural Dialogue on Methodology of Case Reconstruction between Germany and Japan
3. 学会等名	WALS(The World Association of Lesson Studies) Conference 2018 (国際学会)
4. 発表年	2018年

1. 発表者名 吉田成章・松田充・宮本勇一・安藤和久・藤原由佳・阿蘇真早子・金原遼・三戸部由幸・澤田百花・藤井翔太・明月・唐曉冬
2. 発表標題 教科書は「主体的・対話的で深い学び」をいかに求めているか 2019年度検定済み中学校教科書の分析を中心に
3. 学会等名 中国四国教育学会第73回大会自由研究発表「カリキュラム」部会、山口大学（オンライン）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Nariakira Yoshida
2. 発表標題 From School-based Lesson Study to Lesson Study-based School Community: or From Teacher Educator to Community-based Curriculum Designer
3. 学会等名 WALS(The World Association of Lesson Studies) Conference 2021, Symposium “Teacher Educators’ Involvements in School-based Lesson Study: A Case of Japan”, Macau and Hongkong (Online) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yuichi Miyamoto, Yuka Fujiwara, Kazuhisa Ando, Masako Aso, Yue Ming, Mitsuru Matsuda, Nariakira Yoshida
2. 発表標題 The Landscape of Researches on Lesson Study: An attempt to develop online research database of LS
3. 学会等名 WALS(The World Association of Lesson Studies) Conference 2021, Symposium “Teacher Educators’ Involvements in School-based Lesson Study: A Case of Japan”, Macau and Hongkong (Online) (国際学会)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 深澤広明、吉田成章	4. 発行年 2020年
2. 出版社 溪水社	5. 総ページ数 192
3. 書名 学習集団づくりが育てる「学びに向かう力」 授業づくりと学級づくりの一体的改革	

1. 著者名 広島大学教育ビジョン研究センター 草原和博・吉田成章編著	4. 発行年 2020年
2. 出版社 溪水社	5. 総ページ数 182
3. 書名 3. 書名ポスト・コロナの学校教育 教育者の応答と未来デザイン	

1. 著者名 Jongsung Kim, Nariakira Yoshida, Shotaro Iwata, & Hiromi Kawaguchi (Ed.)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 240
3. 書名 Lesson Study-based Teacher Education: The Potential of the Japanese Approach in Global Settings	

1. 著者名 広島大学教育ビジョン研究センター 草原和博・吉田成章編著	4. 発行年 2021年
2. 出版社 溪水社	5. 総ページ数 151
3. 書名 「コロナ」から学校教育をリデザインする 公教育としての学校を捉える視点	

1. 著者名 樋口直宏・吉田成章編著	4. 発行年 2021年
2. 出版社 協同出版	5. 総ページ数 211
3. 書名 教育方法と技術・教育課程	

1. 著者名 Maria Hallitzky, Christine Kieres, Emi Kinoshita, Nariakira Yoshida (Hrsg.)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Klinkhardt	5. 総ページ数 138
3. 書名 Unterrichtsforschung und Unterrichtspraxis im Gespraech: Interkulturelle und interprofessionelle Perspektiven auf eine Unterrichtsstunde	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
主たる渡航先の主たる海外共同研究者	ハリツキー マリア (Hallitzky Maria)	ライプツィヒ大学・教育科学部・教授	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
ドイツ	ライプツィヒ大学			